（様式1）

平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 032	**提案機関名**	農業技術センター北相地区事務所
要望問題名	津久井在来大豆をエダマメとして栽培する際の適正施肥量の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 津久井在来大豆のエダマメとしての利用に期待がかかっており、栽培面積が増える見込みである。 施肥基準では、大豆と春まきのエダマメの施肥量の記載はあるが、晩生種である津久井在来をエダマメで栽培する場合に、大豆と同程度の施肥量にするか、エダマメと同程度がよいのか、適正施肥量の検討をお願いしたい。		
解決希望年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内	
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター	
備　考		

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	北相地区事務所
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可		
試験研究課題名 （①、②、④の場合） 新鮮で安全な農畜産物を安定して低供するための技術開発 北相地域特産物の高品質安定生産技術の開発			
対応の内容等 標記研究課題の中の「ダイズ品種津久井在来を用いたエダマメ栽培の検討」で試験を実施中です。津久井在来は当地域発祥の重要な遺伝資源ですので、エダマメとしての利用の拡大も重要と考えています。津久井在来大豆のエダマメ栽培において、ダイズの施肥量で十分な収量が得られるならば肥料の大幅な削減が可能となるため、環境保全型農業という点からも適正施肥量の検討は重要であると考えます。施肥基準におけるダイズ栽培時の施肥量とエダマメ栽培時の施肥量で津久井在来大豆のエダマメ栽培比較試験を行い、適正施肥量の検討を行います。			
解決予定年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内		
備　考			